

博士課程教育リーディングプログラム 事後評価結果

機 関 名	大阪大学	整理番号	J02
プログラム名称	インタラクティブ物質科学・カデットプログラム		
プログラム責任者	狩野 裕	プログラムコーディネーター	芦田 昌明

博士課程教育リーディングプログラム委員会における評価

[総括評価]

計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。

[コメント]

リーダーを養成するための学位プログラム、体制等の構築については、本プログラムの全ての学生が履修する研究室ローテーション・海外研修・インターンシップの実践的研修及びカデットコア科目・異分野専門科目のコースワークからなる教育体系が構築され、教員と学生の両者がインタラクティブにプログラムを実践することにより、自主性と高いレベルの能力を有する学生が育成されている点は高く評価できる。学生が自主的に企画して取り組んだ「物性物理 100 問集」や「物質化学 100 問集」の改訂・出版事業は、その証左の一つと言える。能力伸長に対する定量的評価を大学独自に実施し、学生が獲得すべき俯瞰複眼的視点、企画自立性など7つの能力とカリキュラム項目を対応させて成長度を把握しながらプログラムや教育内容を改善し深めてきたことは特筆に値する。研究室ローテーションでは、プログラム学生は異分野の環境で新たな思考法などを学び、俯瞰複眼的思考力が養われている。この取組が博士論文の内容を広げる上で大きく役立つとともに、研究科や分野の枠を超えた共同研究に発展していることは高く評価できる。

修了者の成長とキャリアパスの構築については、プログラム学生の受賞実績や能力向上調査の結果、修了者に対するアカデミア・産業界からの高い評価等から、基礎学力に基づく高度な専門力とともに俯瞰力、専門対話力、企画力、国際突破力等が大幅に向上していることが認められ、自立した研究者が育成できていることは高く評価できる。特に産業界からは、従来の博士課程修了者に比べて本プログラム修了者は広い視野の研究力、洞察力、企画力に優れている等の評価を受けている。入学時はアカデミア志向が強いのに対し、修了者は25%がアカデミア、75%が産業界に就職しており、多様なセクターでリーダーとして活躍できる博士人材が育成されていると評価できる。

事業の定着・発展については、大学院改革の推進を目的として「国際共創大学院学位プログラム推進機構」を平成30年8月に設置し、求められる博士人材像を3つの類型で明確化している。平成31年度からは、対象専攻を従来の9専攻から18専攻に拡大して同様のカリキュラムを継続する点は評価できる。一方、準備履修生を含め本プログラムと同程度の募集定員の確保やRA・TAを含めた経済的支援の強化等によって、優れた成果をより積極的に発展させることが望まれる。大阪大学共創機構が統括する協力企業との連携は、博士人材育成の支援やイノベーション創出に貢献することが期待され、評価できる。